

このまちに暮らす、

# わたしたちの 「EARLY LEARNERS」



従業員の皆さんと一緒に野菜の袋詰めを行うSさん。その仕事ぶりに「今日も大活躍だね！」と声を掛けられ、笑顔を見せてくれた



放課後等デイサービス「gleam」で出会った仲よし2人組



グループホームでの交流のひとつ



耳の聞こえない人も聞こえる人も手話での会話を楽しむ

## 障がいはどう眼差すか。まなざ

広報きたもとは、これまでさまざまな「人」に話を聞いてきた。まちづくりを仕掛ける人、地域に自分の居場所を見出した主婦、まつりの伝統を伝え残す人など、老若男女問わず、「このまちで暮らすわたしたち」に光を当ててきた。

今回、スポットを当てるのは、「障がいとともに生きる人たち《Challenged》」だ。

「障がいのある人」を表すChallengedは、「the challenged（挑戦という使命や課題、挑戦するチャンスや資格を与えられた人）」を語源とする。

障がいのあるお子さんの母親たちの座談会や、障がいのある人たちが過ごす福祉事業所、障がいのある人もない人も交流できるカフェなど、さまざまなChallengedと共にある現場に足を運び、話を聞いた。

そこで目の当たりにしたのは、障がいへの多様な向き合い方——「眼差しの在り方」だった。

関市長公室シティブロモーション・広報担当

(0594)5505、FAX591-6777



A型事業所で働くKさん